

平成7年度 試験研究発表題名一覧表

研究室	題名	著者名	書名	巻・(号)	ページ	年・月
支所長	研究基本計画の見直しと関西支所の新しい研究問題	陶山 正憲	森林総合研究所関西支所研究情報	35	1	1995. 2
	地域防災対策総合治山事業調査報告, 広島県神石郡油木町	栃木 省二 陶山 正憲 川上 力男 古賀 孝明	地域防災対策総合治山事業調査報告書, 広島県神石郡油木町農林事務所(広島県森林協会)		225	1995.10
	地域防災対策総合治山事業調査報告, 広島県加茂郡大和町	栃木 省二 陶山 正憲 岡田 孝裕 古賀 孝明	地域防災対策総合治山事業調査報告書, 広島県加茂郡大和町農林事務所(広島県森林協会)		225	1995.10
	森林総合研究所創立90周年に寄せて	陶山 正憲	森林総研所報	86	4	1995.11
	第二浜田ダム建設に伴う国有林野内森林施業等影響評価報告	陶山 正憲 北原 英治 清野 嘉之	第二浜田ダム建設に伴う国有林野内森林施業等影響評価報告書, 島根県浜田河川総合開発事業所		178	1996. 3
研究室	題名	著者名	書名	巻・(号)	ページ	年・月
保護部長	特に松くい虫の被害とその防除	松浦 邦昭	緑化樹木の樹勢回復(ゴルファーの緑化促進協力会編)(博友社)		84~ 96	1995. 7
	林業の活性化に関する研究分野	松浦 邦昭	森林総合研究所九十一年のあゆみ		128~ 134	1995. 9

研究室	題名	著者名	書名	巻(号)	ページ	年・月
造林研究室	Forest conversion and the role of slash-and-burn agriculture - Lowland of Kalimantan, Indonesia. (森林の転換と焼畑農業の役割 - インドネシア国カリマンタン島低地)	清野 嘉之 Hastaniah (ムラワルマン大学)	Proceedings of the international symposium on Asian Tropical Forest Management (PUSREHUT Special Publication)		1~ 11	1994. 9
	カリマンタンの低地の植物群落とバイオマスにおよぼす人為影響.	清野 嘉之	カーボン・シンク・プロジェクト推進調査事業(平成6年度調査事業報告書)		154~ 202	1995. 3
	インドネシア国カリマンタン低地における森林の転換と焼畑農業のやくわり.	清野 嘉之 Hastaniah (インドネシア 教育文化省)	日本林学会大会講演要旨集	106	809	1995. 4
	カリマンタンの低地の植物群落とバイオマスにおよぼす人為影響.	清野 嘉之	日本熱帯生態学会大会講演要旨集	5	29	1995. 6
	劣化林の遷移過程	清野 嘉之 田中 永晴 太田 誠一	森林総合研究所研究成果選集1994		46~ 47	1995. 9
	Alang-alang ( <i>Imperata cylindrica</i> ) grassland - Why have the grasslands existed in and around Bukit Soeharto? (アランアラン ( <i>Imperata cylindrica</i> ) 草原 - フキツスハルトとその周辺になぜ草原あるのか?)	清野 嘉之 Hastaniah (PUSREHUT ムラワルマン大学)	JICA Expert Report 1995	No. 2	45	1995. 12
	Succession of Alang-alang ( <i>Imperata cylindrica</i> ) grassland along the Samarinda-Balikpapan Road in Kalimantan (カリマンタン島サマリタ - バリクパパン道路沿いのアランアラン草原の遷移)	清野 嘉之 Hastaniah (インドネシア教育 文化省)	海外研究業務報告 1995		47~ 48	1996. 3
	Regeneration process with reference to ecosystem disturbance caused by forest fire and swidden cultivation. (森林火災と焼畑耕作による生態系の攪乱と更新過程)	Matius, P., Hastaniah (ムラワルマン大学) 清野 嘉之	Annual Report of PUSREHUT	5	14~ 27	1994. 12
	シャレになるのかネズミサシ	清野 嘉之	森の木の100不思議		194~ 195	1996. 2
	森林衰退と酸性降下物の因果関係の是非, ドイツ・バイエルン州トウヒ人工林の成長解析	千葉 幸弘 Tenhunen, John D. (Univ. Bayreuth)	日本生態学会大会講演要旨	42	123	1995. 4
	攪乱を伴う森林生態系の物質循環とその生態学的意義	千葉 幸弘	I G B P ・ G A I M 研究会講演要旨	7	1	1995. 5
	スギの林は台風に弱い?	千葉 幸弘	森林の木100不思議		136~ 137	1996. 2
	インドネシア南スマトラ森林造成技術協力計画: 更新システム	千葉 幸弘	海外研究業務報告 1995		93~ 97	1995. 8

研究室	題名	著者名	書名	巻(号)	ページ	年・月
造林研究室	樹形, バイプモデル, Canopy dynamics に関する 簡単なモデル	千葉 幸弘	日本生態学会大会講 演要旨	43	55	1996. 3
	モウソウチクの分布拡大速 度	井鷲 裕司 鳥居 厚志	森林総合研究所関西 支所年報	36	19	1995. 9
	物質経済から見たタケ群落 の生態学的研究	井鷲 裕司	日本林学会大会講演 要旨集	106	808	1995. 4
	森林生態系における決定論 的カオス	井鷲 裕司 隅田 明洋 伊東 宏樹	日本林学会大会講演 要旨集	106	665	1995. 4
	勝手に生えるタケノコを生 かす	井鷲 裕司	バイオルネッサンス ～生物の持つ多様な 機能を生かす～新需 要創出計画第I期成 果報告書		54～ 55	1995. 7
	植物個体群を mast year に 同調させるメカニズム	井鷲 裕司 隅田 明洋 伊東 宏樹	日本生態学会大会講 演要旨集	42	33	1995. 8
	咲かせてみようタケの花	井鷲 裕司	森の木の100不思議		34～ 35	1996. 2
	植物個体の物質収支モデル で masting を考える	井鷲 裕司	個体群生態学会報	52	49～ 54	1995. 6
	森林植物の新しい親子判定 法	井鷲 裕司	森林総合研究所関西 支所研究情報	39	2	1996. 2
	スズタケ( <i>Sasamorpha borealis</i> (Hackel) Nakai var. <i>borealis</i> ) の 光合成活性	井鷲 裕司 伊東 宏樹	Bamboo Journal	13	9～ 13	1995. 12
	里山の生態系	伊東 宏樹	子供の科学			1994. 5
	大阪層群上に成立する二次 林の植生と表層地質	伊東 宏樹 白井 宏尚 (神戸大院, 自然科学研究科) 柳沢 直 佐久間大輔 田端 英雄 (京大・ 生態研センター)	日本生態学会大会講 演要旨集	42		1995. 8
	広葉樹二次林内での常緑広 葉樹の下層木の分布	伊東 宏樹	森林総合研究所関西 支所年報	36		1995. 9
	更新統の丘陵地に成立する 里山の生態-表層地質と植 生を中心に	佐久間大輔 柳沢 直 田端 英雄 (京大・ 生態研センター) 白井 宏尚 (神戸大院・ 自然科学) 伊東 宏樹	日本生態学会大会講 演要旨集	43		1996. 3

研究室	題名	著者名	書名	巻(号)	ページ	年・月
風致林管理 研 究 室	住民意識と立地環境評価の 総合化による森林機能配置 計画－兵庫県南部における 試み－	杉村 乾	環境情報科学論文集	8	63～ 68	1995. 4
	総合化という一つの研究の 方向について	杉村 乾	森林総合研究所関西 支所研究情報	36	1	1995. 5
	森林の風致機能評価におけ る2つのアプローチ－兵庫 県南部における比較－	杉村 乾 田村 和也	森林総合研究所関西 支所年報	36	22	1995. 9
	糞塊調査によるアマミノク ロウサギの生息頻度の推定 について	杉村 乾 佐藤 重徳 平川 浩文 山田 文雄 阿部 慎太郎 半田 ゆかり (奄美哺乳類研究会)	日本哺乳類学会大会 講演要旨集1995		62	1995. 9
	徳之島におけるアマミノク ロウサギの生息状況につい て	杉村 乾 佐藤 重徳 山田 文雄	チリモス	6(1)	17～ 21	1995.10
	森林政策決定の差異が奄美 大島の壮齢林の断片化と希 少鳥獣の生息環境に与える 影響	杉村 乾	環境情報科学論文集	9	121～ 126	1995.11
	アマミノクロウサギ	杉村 乾	日本動物大百科1 (哺乳類I)		60～ 61	1996. 2
	スギ・ヒノキの材積生長と 気候条件および温暖化の影 響について	杉村 乾	日本林学会大会講演 要旨集	107	153	1996. 3
	ユフロ・ワークショップ、 ランドスケープ・エコロジ ーの分析手法に参加して	杉村 乾	IUFRO-J NEWS	57	9～ 12	1996. 3
	腐葉土生産と里山	深町加津枝	グリーン情報	16(5)	57～ 60	1995. 5
	嵐山国有林における植生遷 移	深町加津枝	森林総合研究所関西 支所年報	36	23	1995. 9
	腐葉土の生産・流通と落ち 葉採集の現状について	野瀬 光弘 (京都大学農学部) 深町加津枝	日林論	106	195～ 200	1995.10
	腐葉土の生産・流通構造と 里山利用－栃木県を事例に して－	深町加津枝 柳幸 広登 堀 靖人	日林誌	77(6)	553～ 562	1995.11
	写真投影法による箕面国定 公園利用者の風景認識に関 する研究	奥 敬一 深町加津枝	ランドスケープ研究	58(5)	173～ 176	1995. 3
森林レクリエーション活動 による風景認識の差異	奥 敬一	森林総合研究所関西 支所年報	36	24	1995. 9	

研究室	題名	著者名	書名	巻(号)	ページ	年・月
土壌研究室	タケが森林を駆逐する?	鳥居 厚志 井 篤 裕司	森林総研研究成果選集		36~ 37	1995. 7
	田辺丘陵のタケ群落の増減と群落規模の解析	鳥居 厚志 井 篤 裕司	森林総研関西支所年報	36	25	1995. 9
	氷ノ山の湿原堆積物中の鉱物とその起源	鳥居 厚志	森林総研関西支所年報	36	26	1995. 9
	兵庫県氷ノ山土壌の粘土鉱物と母材の累積性	鳥居 厚志	土壌肥料学会講演要旨集	42	128	1996. 3
	竹林の分布拡大速度の推定(I)	鳥居 厚志	日本生態学会大会講演要旨集	43	90	1996. 3
	表土流亡危険度を雨滴エネルギーから推定する	荒木 誠	森林総合研究所関西支所研究情報	36	3	1995. 5
	ヒノキ林の表土流亡危険度の判定	荒木 誠 三浦 覚 加藤 正樹 酒井 正治	森林総合研究所所報	84	6~ 7	1995. 9
	宝川森林理水試験地における土壌孔隙量をもとにした保水容量の推定	有光 一登 (高知大学農学部) 荒木 誠 宮川 清男 小林 繁正 加藤 正樹	森林立地	37	49~ 58	1995.12
	Moisture condition and physical and chemical properties of nursery pot soils in Kilimanjaro Village Forestry Project (キリマンジャロ村森林プロジェクトにおける苗圃ポット土壌の環境条件と物理・化学的特徴)	荒木 誠	海外林業部門業務報告書1994		1~ 10	1995. 4
	琵琶湖における有機物の動態と森林との関わり	金子 真司	かんきょう	20	36~ 37	1995.11
	森林総研関西支所構内の降雨中の有機炭素濃度	金子 真司	日林関西支部要旨集	46	18	1995.10
	兵庫県南部地震による液状化現象の緑地への影響一樹木の成育状況と土壌の塩基含量の変化一	金子 真司 荒木 誠 清野 嘉之 古澤 仁美 澤居 厚志 伊東 宏樹	日林関西支部要旨集	46	29	1995.10
	平成6年度の関西支所構内の酸性降雨について	金子 真司	森林総合研究所関西支所年報	36	27	1995. 9
	こっちの水はあまいぞ	金子 真司	森林総合研究所関西支所研究情報	38	2	1995.11
	岡山試験地における渓流水質の経時変化	金子 真司 服部 重昭 荒木 誠 井 篤 裕司	日本林学会大会講演要旨集	106	730	1995. 4
野外における土壌呼吸測定法の検討	古澤 仁美 小林 永晴 中松 陽介	日本林学会大会講演要旨集	106	194	1995. 4	
植生回復に伴う人工未熟土壌の変化一福島県花崗岩地帯の林道法面の事例一	古澤 仁美 小林 繁男	日本緑化工学会研究発表会研究発表要旨集	26	129~ 132	1995. 6	

研究室	題名	著者名	書名	巻(号)	ページ	年・月
防災研究室	京都市山科区における林野火災跡地の植生回復初期過程	後藤 義明 玉井 幸治	森林総合研究所関西支所年報	36	28	1995. 9
	瀬戸内海沿岸地方の大規模林野火災	後藤 義明	森林総合研究所関西支所研究情報	38	1	1995.11
	林冠形状に基づいたアルベドの予測	玉井 幸治 服部 重昭 (名古屋大学農学部) 後藤 義明	日本林学会大会講演要旨集	106	256	1995. 4
	落葉広葉樹二次林の水収支特性	服部 重昭 (名古屋大学農学部) 玉井 幸治	森林総合研究所所報	79	4~ 5	1995. 4
	落葉広葉樹林における「蒸発効率」の特性	玉井 幸治 服部 重昭 (名古屋大学農学部)	水文・水資源学会研究発表会要旨集1995		28~ 29	1995. 8
	ヒノキ林における土壌水分と飽差が蒸発散に及ぼす影響	服部 重昭 (名古屋大学農学部) 玉井 幸治 阿部 敏夫	森林科学	15	7~ 11	1995.10
	落葉広葉樹二次林の水収支特性	服部 重昭 (名古屋大学農学部) 玉井 幸治 阿部 敏夫	森林総合研究所関西支所年報	36	30	1995. 9
群落コンダクタンスの季節変化ー落葉広葉樹二次林の場合ー	玉井 幸治 服部 重昭 (名古屋大学農学部) 後藤 義明	森林総合研究所関西支所年報	36	29	1995. 9	

研究室	題名	著者名	書名	巻(号)	ページ	年・月
経営研究室	林業関連第三セクターの展開と現状	野田 英志	北川泉編著、森林・林業と中山間地域問題		245~ 261	1995. 3
	平成6年度・プレカット工場における木材流通実態調査報告	野田 英志	高度加工木製品物流拠点等整備基礎・プレカット工場における流通実態調査		1~ 90	1995. 3
	プレカット工場における木材流通の実態	野田 英志	木材情報	50	15~ 20	1995. 7
	DIYによる住み手参加の家造り	野田 英志	木材産業活性化提案集		27~ 28	1995. 8
	木造住宅建築構造の変化と木材流通システムの新しい動きーハウスメーカー主導の直結型木材流通の形成ー	野田 英志	森林総合研究所関西支所年報	36	31	1995. 9
	一流の機械と一流の経営で日本一の林業をー和歌山県中津村ー	野田 英志	山林	1338	33~ 39	1995.11
	質的収獲予測に向けて	細田 和男	森林総合研究所関西支所研究情報	37	3	1995. 8
	スギ・ヒノキ人工林の林分成長ー篠谷山・新重山試験地定期調査の結果ー	細田 和男 家原 敏郎	森林総合研究所関西支所年報	36	41~ 44	1995. 9
	遠藤スギ択伐収獲試験地の林分成長経過	細田 和男 家原 敏郎	森林総合研究所関西支所年報	36	45~ 47	1995. 9
	竹材生産量・面積の地域的推移について	田村 和也	森林総合研究所関西支所年報	36	32	1995. 9

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・(号)	ページ	年・月
樹病研究室	Water relations, xylem embolism and histological features of <i>Pinus thunbergii</i> inoculated with virulent or avirulent <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> (強病原性または弱病原性マツノザイセンチュウを接種したクロマツの水分状態, 木部エンボリスムと組織学的特性)	池田 武文 清原 友也	Journal of Experimental Botany	46 (285)	441~ 449	1995. 4
	マツノザイセンチュウを接種したクロマツの水分状態とキャビテーション発生の関係	池田 武文	日本植物学会大会発表記録	59	209	1995. 9
	Water relations in pine suffered from pine wilt disease (マツ材線虫病に罹病したマツの水分状態)	池田 武文	International Symposium on Pine Wilt Disease Caused by Pine Wood Nematode (China) 要旨集		11	1995. 10
	樹病研究から森林病理研究へ	池田 武文	森林総合研究所関西支所研究情報	37	1	1995. 8
	マツ材線虫病の発病とマツの水分生理特性との関係	池田 武文	森林総合研究所成果選集		42~ 43	1995. 9
	樹木の病気と水分生理	池田 武文	森林防疫	44(10)	183~ 187	1995. 10
	マツ材線虫病における異常なキャビテーションのA E法による検出	黒田 慶子	日林講要	106	92	1995. 3
	山口県におけるヒノキ漏脂病	田戸 裕之 (山口県林指セ) 黒田 慶子 伊藤進一郎	日林講要	106	103	1995. 3
	スギ黒心材形成要因の検討 II 一発生を回避するための施業技術一	黒田 慶子 伊藤進一郎	森林総合研究所関西支所年報	36	33	1995. 9
	ヒノキにおける傷害樹脂道形成位置の季節的変化	黒田 慶子	森林総合研究所関西支所年報	36	34	1995. 9
	マツ材線虫病の発病機構と抵抗性機構 一抵抗性樹種における発病阻止要因の検討一	黒田 慶子	森林総合研究所所報	85	8~ 9	1995. 10
	Acoustic emission technique for the detection of abnormal cavitation in pine trees infected with pine wilt disease (マツ材線虫病に感染したマツの異常なキャビテーションを抽出する, アコースティックエミッション技術)	黒田 慶子	International Symposium on Pine Wilt Disease Caused by Pine Wood Nematode (China) 要旨集		11	1995. 11
	ナラ類の集団枯損にみられる辺材の変色と通水機能の低下	黒田 慶子 山田 利博	日林誌	78 (1)	84~ 88	1996. 2
	アコースティックエミッションを利用した仮道管キャビテーションの検出 一マツ材線虫病罹病木における通水阻害進行状況の追跡一	黒田 慶子	木材学会講要	46	83	1996. 3

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・(号)	ページ	年・月
昆虫研究室	竹林・竹材害虫の生態とその防除法の確立	藤田 和幸 細田 隆治 浦野 忠久 上田 明良 田畑 勝洋 伊藤 賢介 伊藤 雅道 五十嵐 正俊	森林総合研究所研究 成果選集1994		34～ 35	1995. 9
	スギノアカネトラカミキリの分布実態調査	藤田 和幸 細田 隆治 浦野 忠久 上田 明良	森林総合研究所関西 支所年報	36	36	1995. 10
	幼若ホルモン様活性物質ピリプロキシフェンによるスギカミキリ防除効果の検討	細田 隆治 藤田 和幸 伊藤 賢介 浦野 忠久 上田 明良	日本林学会誌	78(1)	57～ 60	1996. 2
	オオコクヌストの産卵と発育の経過	細田 隆治 上田 明良 藤田 和幸 浦野 忠久	森林総合研究所関西 支所年報	36	36	1995. 10
	Field study of two spermathophagous scolytid beetles, <i>Coccotrypes graniceps</i> Eichohoff and <i>C. cardamomi</i> (Shaufuss), in Acorns of <i>Quercus myrsinae folia</i> Blume. (シラカン堅果に入る2種の種子食キクイムシ, ドソク <sup>®</sup> リキクイムシとクリノミキクイムシの野外研究)	上田 明良	Proceedings of the IUFRO Joint Conference -February 1994		610～ 626	1995. 9
	亜社会性甲虫一家族をつくる甲虫一	近 雅博 (滋賀県立大環境部) 荒谷 邦雄 (京都大学大学院人間・環境学 科) 上田 明良	遺伝	49(9)	39～ 43	1995. 9
	落下後のドングリへの加害虫	上田 明良	森林総合研究所関西 支所研究情報	36	4	1995. 5
	マツノマダラカミキリの幼虫は昼と夜の長さがわかっている？	上田 明良	森林総合研究所関西 支所研究情報	38	3	1995. 11
	Percent parasitisms of the parasitoid wasps on inoculated larvae of the cryptomeria bark borer, <i>Semanotus japonicus</i> Lacordaire (Coleoptera: Cerambycidae) (スキ <sup>®</sup> カミキリ丸太接種幼虫に対する寄生蜂群の寄生率)	浦野 忠久 伊藤 賢介	Proceedings of the IUFRO Joint Conference -February 1994		408～ 414	1995. 9
	寄生バチは隠れた寄主をどのようにして発見するか？	浦野 忠久	森林総合研究所関西 支所研究情報	39	3	1996. 2
	スギカミキリの天敵ヨゴオナガコマユバチの発育経過	浦野 忠久 細田 隆治 藤田 和幸 上田 明良	森林総合研究所関西 支所年報	36	37	1995. 10



研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・(号)	ページ	年・月
鳥獣研究室	Taxonomic status of Anderson's red-backed vole on the Kii Peninsula, Japan, based on skull and dental characters (頭骨と臼歯の形質からみた紀伊半島産ヤチネズミの分類学的地位)	北原 英治	Journal of the Mammalogical Society of Japan (日本哺乳類学会誌)	20(1)	9~ 28	1995. 6
	Growth and development of captive Anderson's red-backed voles from the Kii Peninsula (飼育下における紀伊半島産ヤチネズミの成長と発育)	北原 英治	Journal of the Mammalogical Society of Japan (日本哺乳類学会誌)	20(1)	29~ 42	1995. 6
	Taxonomic reexamination among three local populations of Anderson's red-backed vole: evidence from crossbreeding experiments (本州産ヤチネズミ3地域群間における交配実験からの分類学的再検討)	北原 英治	Journal of the Mammalogical Society of Japan (日本哺乳類学会誌)	20(1)	43~ 49	1995. 6
	Reproductive traits of captive Anderson's red-backed voles <i>Eothenomys andersoni</i> from the Kii Peninsula (飼育下における紀伊半島産ヤチネズミの繁殖特性)	北原 英治	Journal of the Mammalogical Society of Japan (日本哺乳類学会誌)	20(2)	95~ 108	1995. 12
	紀伊半島産ヤチネズミの排卵様式	北原 英治 島田 卓哉	研究成果選集	1994	38~ 39	1995. 9
	小豆島におけるニホンジカの生息状況等調査報告書	北原 英治 島田 卓哉 小泉 透	香川県		22	1995. 3
	森林研究の中の野生鳥獣	北原 英治	森林総研関西支所研究情報	39	1	1996. 2
	おしっこを染める—蛍光染料を用いた排泄物のラベリング—	島田 卓哉	森林総研関西支所研究情報	36	2	1995. 5
	野ネズミの種子嗜好性について—種子分散との関係—	島田 卓哉 北原 英治	森林総合研究所関西支所研究年報	36	39	1995. 9
	野ネズミの嗜好性は堅果の消費や散布にどのような影響を持つか?	島田 卓哉 北原 英治	日本生態学会大会講演要旨集	43	32	1996. 3
	アカオオハシモズの配偶様式	江口 和洋 (九大) 永田 尚志 (国立環境研) 日野 輝明 山岸 哲 (大阪市大)	日本生態学会大会講演要旨集	42	142	1995. 8
	マダガスカル産の鳥の混群における「道行くもの」と「かすめ取るもの」	日野 輝明	日本生態学会大会講演要旨集	43	139	1996. 3
	マダガスカル産オオハシモズの長期にわたる家族社会	山岸 哲 (大阪市大) 江口 和洋 (九大) 日野 輝明 永田 尚志 (国立環境研)	日本生態学会大会講演要旨集	43	140	1996. 3

研究室	題 名	著 者 名	書 名	卷-(号)	ページ	年・月
鳥獣研究室	群集と個体の接着剤としての の個体群研究	日野 輝明	日本生態学会講演要 旨集	43	24	1996. 3
	生態学における長期研究	日野 輝明	個体群生態学会会報	52	7~ 14	1995. 6
	シカによる下層植生の食害 が鳥類群集に与える影響	日野 輝明	森林総合研究所関西 支所年報	36	40	1995. 9
	マダガスカル産オオハシモ ズの多様な配偶様式	山岸 哲 (大阪市大) 江口 和洋 (九大) 日野 輝明 永田 尚志 (国立環境研)	日本鳥学会講演要旨 集 1995		54	1995. 9

(1) 沿革

関西支所

- 昭和22. 4 林政統一による機構改革に伴う林業試験研究機関の整備のため、大阪営林局内の試験調査部門の編成替により、農林省林業試験場大阪支場を局内に併置
- 昭和25. 4 京都市東山区七条大和大路に大阪支場京都分室を設置
- 昭和27. 7 京都分室を廃止し、その跡地へ支場を移転し京都支場に改称
- 昭和28. 2 支場庁舎敷地として新たに伏見区桃山町（現在地）に所属替、同時に桃山研究室を設置
- 昭和31. 3 現在地に庁舎・研究室を新設・移転
- 昭和34. 7 関西支場に改称
- 昭和40. 3 研究室等を増改築
- 昭和41. 4 部制設置（育林・保護の2部）
- 〃 防災研究室を岡山試験地から移転
- 昭和51.11 庁舎・研究室（昭和31.3新築のもの）を改築
- 昭和57.12 鳥獣実験室を新築
- 昭和59.12 治山実験室を新築
- 昭和62.12 森林害虫実験棟（旧昆虫飼育室）を建替え
- 〃 危険物貯蔵庫を建替え
- 昭和63. 3 ガラス室、隔離温室を建替え
- 昭和63.10 林業試験場の組織改変により森林総合研究所関西支所に改称
- 〃 風致林管理研究室を育林部に新設
- 〃 調査室を連絡調整室に改称
- 平成元.12 粗試料調整測定室を新築
- 平成4. 3 風致林管理実験棟を新築
- 平成4. 4 鳥獣研究室を保護部に新設
- 平成5.12 森林微生物生理実験棟を新築

岡山試験地

- 昭和10. 8 岡山県上道郡高島村に水源涵養試験地として設置
- 昭和12.12 林業試験場高島試験地に改称
- 昭和22. 4 林業試験場大阪支場の所管となり、同支場高島分場に改称
- 昭和27. 7 林業試験場京都支場高島分場に改称
- 昭和34. 7 林業試験場関西支場岡山分場に改称
- 昭和41. 4 林業試験場関西支場岡山試験地に改称
- 昭和60.12 試験地無人化となり事務所を閉鎖
- 昭和63. 9 旧庁舎、宿舎など施設を取壊
- 昭和63.10 林業試験場の組織改変により試験地廃止

(2) 土地および施設

1. 土地

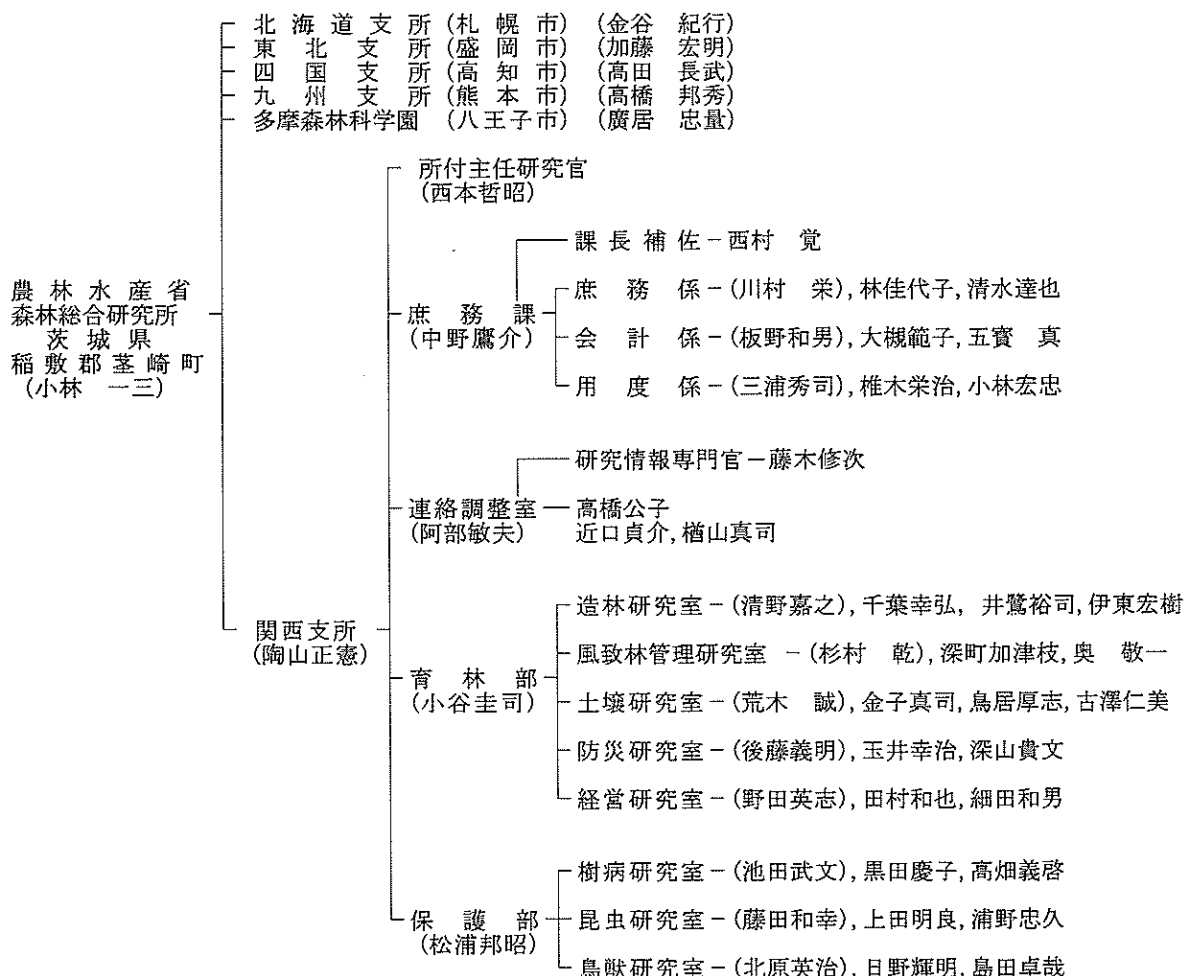
関西支所敷地	64,117㎡
内 訳	
庁 舎	敷 (9,621)
苗 畑	(10,923)
樹 木 園	(5,831)
見 本 林 ・ 実 験 林	(35,321)
そ の 他 の 施 設 等	(2,421)
宿 舎 敷 地	4,000㎡
島 津 実 験 林	7,045㎡
宇 治 見 実 験 林	3,812㎡
岡 山 実 験 林	13,324㎡
計	92,288㎡

2. 施設（延べ面積）

庁 舎	3 棟	2,275㎡
内 訳		
研 究 室 (本 館)		(1,507)
〃 (別 館)		(628)
機 械 室		(140)
温 室	1 棟	85㎡
ガ ラ ス 室	1 〃	56㎡
隔 離 温 室	1 〃	124㎡
殺 菌 培 養 室	1 〃	48㎡
樹 病 低 温 実 験 室	1 〃	91㎡
森 林 害 虫 実 験 棟	1 〃	219㎡
森 林 微 生 物 生 理 実 験 棟	1 〃	118㎡
鳥 獣 実 験 室	1 〃	139㎡
治 山 実 験 室	1 〃	157㎡
粗 試 料 調 整 測 定 室	1 〃	124㎡
材 線 虫 媒 介 昆 虫 実 験 室	1 〃	41㎡
風 致 林 管 理 実 験 棟	1 〃	260㎡
事 務 連 絡 所	1 〃	223㎡
そ の 他	10 〃	370㎡
宿 舎	4 〃	970㎡
計	30 棟	5,300㎡

### (3) 組 織

(平成8年3月31日現在)



### (4) 人 の 動 き

(平成8年3月31日現在)

7. 4. 1 付  
 文部省出向(名古屋大学助教授に)  
 近畿農政局出向(経理課歳出係長に)  
 支所主任研究官に  
 東北支所樹病研究室長に  
 育林部防災研究室長に  
 保護部樹病研究室長に
- 育林部 防災研究室長 服部 重昭  
 庶務課 会計係 米田 和彦  
 本所 森林環境部 西本 哲昭  
 保護部 樹病研究室長 伊藤 進一郎  
 育林部 防災研究室 後藤 義明  
 九州支所 樹病研究室 池田 武文
7. 5. 1 付  
 本所森林環境部種生態研究室長に  
 育林部造林研究室長に  
 育林部防災研究室に  
 保護部樹病研究室に
- 育林部 造林研究室長 加茂 皓一  
 育林部 造林研究室 清野 嘉之  
 本所 企画調整部 深山 貴文  
 本所 企画調整部 高畑 義啓
7. 11. 1 付  
 育林部造林研究室に
- 本所 生産技術部 千葉 幸弘
8. 1. 1 付  
 連絡調整室図書主任に
- 連絡調整室 高橋 公子
8. 3. 31 付  
 退職  
 退職
- 連絡調整室(庶務課庶務係兼務) 船瀬 英雄  
 育林部造林研究室 科学技術特別研究員 隅田 明洋

## (5) 会議等の開催

### 1. 関西地区林業試験研究機関連絡協議会総会

森林総合研究所関西支所、四国支所の管内18府県の公立林業試験研究機関、林木育種センター関西育種場、森林総合研究所関西支所、四国支所など22機関の長を会員として構成された協議会であり、年一回総会が開催される。平成7年度の第48回総会は、高知県林業試験場の企画により6月1日・2日の両日に渡って高知市及び伊野町で開催された。

会議は国の機関ならびに全国林業試験研究機関連絡協議会の中央における林業試験研究関係の動向が紹介され、ついで各研究専門部会（8部会）から活動の状況と今後の計画について報告、提案され討議が行われた。この中で主な協議事項は、専門部会の運営で、懸案である部会の統合については、関係する部会長から検討結果の報告が行われ、その検討結果に基づき、新たな統合（案）、森林環境と樹木保全、育林と育苗との統合が提起され、本年度は統合に関連する専門部会を合同で開催し、結論を得られるよう検討を行い、その結果に基づくこととなった。

### 2. 林業研究開発推進近畿・中国ブロック会議

この会議は、林業研究開発推進会議要領に基づいて毎年開催されている。平成7年度の会議は前年同様京都市呉竹文化センター会議室において、10月12日開催された。

会議には、府県側から近畿・中国地区14府県の林務部局担当者及び林業試験研究機関の長が、また、国側から大阪営林局、林木育種センター関西育種場の関係者ならびに林野庁指導部研究普及課の佐光研究企画官・青柳研究情報係長、森林総研から太田研究管理官及び関西支所関係職員が出席した。

会議は林野庁及び森林総合研究所から挨拶のあと議事に入り、新規事業等の概要を林野庁から、試験研究及び技術開発の動向について、森林総研、関西育種場、大阪営林局からそれぞれ紹介がされた。つづいて各府県から主要な研究の成果21題が報告され、近畿・中国ブロックにおける重要研究課題の成果として7課題を抽出した。さらに技術開発に関する41課題の要望が各府県から提案され討論が行われた。

その分野別主な課題は次のとおりである。

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 造林・風致分野 | リモセンを利用した森林の多面的機能の適正配置に関するもの3題 |
| 育種分野    | 林木遺伝資源の収集・保存に関するもの2題           |
| 経営分野    | 下流域から上流域林業活性化協力システムに関するもの4題    |
| 保護分野    | ナラ類の集団枯損に関するもの4題               |
|         | 野生獣類の密度管理と被害回避に関するもの5題         |
| 特産分野    | ニュータイプきのこの安定生産技術に関するもの4題       |
| 林業機械分野  | 高性能林業機械に適した森林作業及び施業方法に関するもの4題  |
| 木材・林産分野 | 国産材を用いたエクステリア部材の開発に関するもの3題     |

これらの課題を中心とした討論の結果、近畿・中国ブロックにおける地域重要課題として、次の3課題を抽出した。

- 1) 衛星リモートセンシング技術を利用した森林の多面的機能の適正配置に関する研究
- 2) 森づくりへの新たな都市・山村住民の持続的協力システムに関する調査研究
- 3) 高性能林業機械に適した森林施業に関する研究

### 3. 関西支所研究成果発表会

研究成果発表会は、関西支所の研究者によって得られた研究の成果を、広く利活用してもらうため公開で行われており、今年度は10回目にあたり10月13日京都市呉竹文化センター会議室において府県関係者、国有林及び民有林関係者、一般市民など多数の出席を得て開催された。

発表会は、まず森林総合研究所木材利用部 中井木材特性科長による「1995年兵庫県南部地震による木造建物の被害から日本の林業を考える」と題した特別講演があり、続いて支所研究者による2題の研究成果の発表とそれに対する活発な討論がお行われた。発表した研究成果の概要は「研究成果発表会記録」としてP.49～P.50に集録した。

また、同時にポスターセッションによる3題の発表「竹林の物質収支と管理」（造林研究室：井鷲裕司）「渓流水質の経時変化－岡山試験地の調査－」（土壌研究室：金子真司）「植物群落の蒸散が森林の水収支に及ぼす影響の予測モデル」（防災研究室：玉井幸治）を行い、最新の情報を提供し好評を得た。

#### 4. 関西支所研究検討会・研究推進会議等

研究検討会は、2月8日・9日の両日、研究者全員出席のもと支所会議室において開催し、実行課題ごとの研究成果個表に基づき、各担当研究者が研究の進捗状況、成果及び今後の計画など報告、さらに8年度から開始の新規課題について説明・提案を行い、それぞれについて検討された。

48課題が実行され、うち9課題が完了、8年度からの新規課題として8課題、重要研究課題素材として7課題提案、討議され6課題がそれぞれ研究推進会議に報告、検討されることとなった。

研究推進会議は、2月21日支所会議室で開催された。大課題責任者から研究検討会で討議された結果の報告が行われ、検討・評価・調整を行い、主要な研究成果6課題、速報1課題を選定、新規課題として8課題設定され、重要研究課題素材としては、研究検討会で調整された1課題を復活、7課題の摘出を行った。

ひきつづき特別検討事項に移り、「ランドスケープエコロジー及び保全生物学の研究の現状」について、研究者3名の話題提供により活発な論議が展開され、これらに係わる研究の必要性が認識された。

なお、この会議には本所より大貫次長が出席した。

#### 5. 国立機関公害防止等試験研究推進会議

平成7年度開始課題、国立機関公害防止等試験研究「湖沼での有機物の動態解析手法の開発に関する研究」についての、研究推進会議を2月27日支所会議室において支所関係職員出席のもと開催し、7年度の研究進捗状況報告と8年度研究計画の提案が行われ、これらについて検討され、計画どおり進捗させることが確認された。

なお、この会議には、農林水産技術会議事務局連絡調整課細谷環境研究推進室長、企画調査課外崎研究調査官及び林野庁指導部研究普及課松浦研究企画官、本所企画調整部企画科浦島研究管理室長、学識経験者として滋賀県立大学農学部國松教授が出席した。

#### 6. 都道府県助成試験研究推進会議

情報システム化事業「野生獣類の生息動態と森林被害の防除技術に関する調査」の研究推進会議が平成7年4月14日支所会議室において、17府県及び支所関係者出席によって開催された。本課題ではニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンザルの3種を対象に調査が実施され、当年度の成果報告とその討議が行われた。さらに、次年度における取りまとめに対する検討が行われ、当初の計画どおり遂行することを確認した。

(6) 受託研究等調査・指導

用 務	受 託 者	用 務 先	実施月日	出 張 者	
				研究室	氏 名
平成7年度受託研究等に係る現地調査指導	財団法人 林野弘済会 大阪支部長	福井県 今庄町	7.5.29 ) 5.30	支 所 長	陶山正憲
平成7年度受託研究等に係る現地調査指導	財団法人 林野弘済会 大阪支部長	島根県 浜田市	7.6.8 ) 6.9	支 所 長	陶山正憲
大和地区地域防災対策総合治山事業現地調査指導	社団法人 広島県森林 協会	広島県 大和町	7.7.31 ) 8.1	支 所 長	陶山正憲
森林調査の現地指導	財団法人 林野弘済会 大阪支部長	島根県 浜田市	7.8.7 ) 8.10	鳥 獣 研 造 林 研	北原英治 清野嘉之
油木地区地域防災対策総合治山事業現地調査指導	社団法人 広島県森林 協会	広島県 油木町	7.8.24 ) 8.25	支 所 長	陶山正憲
平成7年度受託研究等に係る現地調査指導	財団法人 土井林学 振興会	三重県 尾鷲市	7.8.29 ) 8.31	支 所 長 防 災 研	陶山正憲 後藤義明
森林調査の現地指導	財団法人 林野弘済会 大阪支部長	福井県 今庄町	7.9.6 ) 9.10	造 林 研	清野嘉之
大和地区及び油木地区地域防災対策総合治山事業現地調査指導	社団法人 広島県森林 協会	広島県 油木町 大和町	7.9.28 ) 9.29	支 所 長	陶山正憲
森林調査の現地指導	財団法人 林野弘済会 大阪支部長	福井県 今庄町	7.10.19 ) 10.22	鳥 獣 研	北原英治
森林調査の現地指導	財団法人 林野弘済会 大阪支部長	福井県 今庄町	7.10.20 ) 10.22	支 所 長	陶山正憲
平成7年度外部研究員招へい事業に基づく研究員の招へい	静岡県 林業技術 センター	静岡県 浜北市	7.10.31 ) 11.2	鳥 獣 研	北原英治
福井ふるさとの森整備検討委員会への招へい	福井県 農林水産部 林政課長	福井県 福井市	8.2.13 ) 2.14	支 所 長	陶山正憲
治山事業の工種・工法に係る技術指導	日鐵建材工業 株式会社	東京都	8.2.28 ) 3.1	支 所 長	陶山正憲

(7) 国 内 留 学

氏 名	留 学 先	留 学 期 間	課 題

## (8) 当所職員研修

氏名	研修先	研修期間	研修内容
深山 貴文 高畑 義啓	森林総合研究所関西支所 〃	7. 5. 1～7. 9. 30 〃	平成7年度新規採用研究員専門別研修
清水 達也 五寶 真	大阪合同庁舎第4号館 〃	7. 7. 11 7. 7. 12	給与実務担当者研修会 〃
三浦 秀司	大阪合同庁舎第2号館 京都厚生年金休暇センター	7. 9. 19・20・25～28 7. 9. 21・22	第25回係長研修
深町加津枝 古澤 仁美 細田 和男	ECC外語学院 〃 〃	7. 9. 30～8. 3. 30 7. 8. 28～8. 2. 29 〃	英語研修 〃 〃
深山 貴文	農林研修センター	7. 12. 4～7. 12. 8	平成7年度環境技術研修
中野 鷹介	大阪合同庁舎第2号館 KKRくに荘	8. 1. 22・25～26 8. 1. 23・24	第18回課長研修

## (9) 技術研修受け入れ

氏名	所属機関	研修期間	研修内容
稲垣 昌宏	森林総合研究所 九州支所	7. 12. 18～7. 12. 22	全有機体炭素計の操作の取得
中川 仁男	滋賀県森林センター	7. 7. 3～7. 9. 29	森林病虫獣害の被害診断及び防除方法の修得
張西 郁男	徳島県脇町農林事務所	7. 9. 1～7. 9. 29	育成天然林施業等に関する文献、事例および資料収集等の知識修得

## (10) 海外出張

氏名	出張先	出張期間	研究課題
日野 輝明	マダガスカル 共和国	7. 8. 12～ 10. 24	オオハシモズ類の社会進化（種間関係）の調査研究
清野 嘉之	インドネシア	7. 10. 16～ 12. 16	インドネシア熱帯降雨林研究計画
荒木 誠	タンザニア連合 共和国	7. 11. 2～ 12. 22	タンザニア連合共和国キリマンジャロ村落林業開発計画



(11) 海外派遣

氏名	派遣先	派遣期間	研究課題

(12) 国際研究集会

氏名	行先	派遣期間	研究集会名
杉村 乾	スロベニア	7. 9. 8～ 9. 18	IUFRO ワークショップ S1.01-05 Landscape Ecology
奥 敬一	アメリカ・カナダ	7. 10. 4～ 10. 13	米国造園学会
池田 武文 黒田 慶子	中国	7. 10. 30～ 11. 5	国際マツ材線虫病シンポジウム
玉井 幸治	アメリカ	7. 12. 10～ 12. 18	米国地球物理学連合1995 年秋季大会
金子 真司	オーストラリア	8. 2. 16～ 2. 24	第1回オーストララジア太平洋地域における土壌環境中の汚染物質に関する国際会議
井鷲 裕司 伊東 宏樹	イギリス	8. 3. 23～ 3. 31	国際研究会議「The Bamboos」

(13) 見学者

		内 訳						計
		国	府 県	大 学	小 中 高	林業団体	一 般	
国	件数	14	26	16	6	4	12	78
内	人数	26	66	138	250	4	18	502
国 外		アルゼンチン:2, フランス:1, 韓国:4, 中国:3, マレーシア:1, タイ:4, 中国:2, インドネシア:5, ラオス:3, パキスタン:1, グアテマラ:1, ホリガニア:1, モンゴル:2, パラグアイ:1, エチオピア:1, キニア:1, ネパール:1, イギリス:1						35

(14) 試験地一覽表

国 有 林

試 験 地 名	営林署	森林官 事務所	林 小 班	樹 種	面 積 (ha)	設定 年度	終了 予定 年度	担 当 研究室
高取山スギ人工林皆伐用材林 作業収穫試験地	奈良	下 市	56ほ 49ほ	ス ギ	0.60	昭10	平12	経 営
高取山ヒノキ人工林 "	"	"	56ほ	ヒ ノ キ	0.40	" 10	" 9	"
高野山スギ人工林 "	高 野	高 野	31ろ	ス ギ	0.17	" 10	" 17	"
高野山ヒノキ人工林 "	"	"	31ろ	ヒ ノ キ	0.25	" 10	" 25	"
滝谷スギ人工林 "	山 崎	西 谷	136に	ス ギ	2.25	" 11	" 32	"
新重山ヒノキ人工林 "	福 山	三 和	49と	ヒ ノ キ	1.05	" 12	" 28	"
遠藤スギその他択伐用材林作 業収穫試験地	津 山	上 齊 原	39ろ	ス ギ	1.67	" 12	" 69	"
滑山スギ人工林 "	山 口	滑	11り	ス ギ	1.60	" 13	" 28	"
奥島山アカマツ天然林画伐用 材林作業収穫試験地	大 津	八 幡	79は	ア カ マ ツ	1.75	" 13	" 29	"
地獄谷アカマツ天然林その他 択伐用材林	奈 良	郡 山	17わ	ア カ マ ツ スギ・ヒノキ	1.73	" 15	" 54	"
篠谷山スギ人工林皆伐用材林 "	倉 吉	根 雨	1,015い	ス ギ	0.80	" 34	" 25	"
茗荷淵山ヒノキ人工林 "	新 宮	飛 鳥	41へ	ヒ ノ キ	0.17	" 35	" 62	"
白見スギ人工林 "	"	新 宮	5ほ	ス ギ	1.24	" 37	" 43	"
六万山スギ人工林 "	金 沢	白 峰	55は	ス ギ	0.79	" 37	" 57	"
西条保育形式試験地	広 島	志 和	11へ	ア カ マ ツ	2.15	" 33	" 16	造 林
福山	福 山	上 下	16へ	ス ギ	2.25	" 33	" 16	"
吉永植栽比較試験地	岡 山	和 気	1,005ほ	スギ他5	1.54	" 41	" 8	"
竜の口山量水試験地	岡 山	岡 山	11ほ・に・は	ア カ マ ツ 他	44.99	" 10	" 8	防 災
馬乗山試験地	福 山	大 野	69ち	スギ・ヒノキ	6.50	" 43	" 17	造 林
複層林施業試験地	大 津	大 津	20わ	ヒ ノ キ	0.24	" 59	" 16	造 林
竹林施業技術の改良試験地	京 都	木 津	523い	マ ダ ケ	0.31	" 60	" 14	"
針広混交誘導試験地	神 戸	箕 面	72ほ・り	ヒ ノ キ	1.50	" 60	" 17	造 林
北谷水文試験地	京 都	木 津	509い	広 葉 樹	51.60	" 63	" 10	防 災
坂ノ谷ミズメ個体群更新機構 試験地	山 崎	和 田 山 奥 谷		広 葉 樹		" 63	" 15	造 林
嵐山国有林風致試験地	京 都	嵐 山	38	ス ギ 他	59.03	平元	" 10	風 致 林

そ の 他

試 験 地 名	機 関	面 積 (ha)	設定 年度	終了 予定 年度	担 当 研究室
京都市山科区御陵大谷町林野火災跡地 植生回復経過試験地	京都市上下水道事業管理者	0.022	平 6	平16	防 災

(15) 気象年報

7年 月	気温℃ (測高 120cm)							気温別日数 (測高 120cm)				
	平均 9h	平均 最高	平均 最低	最高	起日	最低	起日	最高		最低		
								< 0℃	≥ 25℃	< -10℃	< 0℃	≥ 25℃
1	2.8	9.5	0.7	17.8	9	-2.7	18				12	
2	3.7	10.6	0.4	14.3	28	-2.2	23				14	
3	8.0	14.6	3.8	22.0	23	-1.5	3				3	
4	14.0	18.9	8.1	24.7	30	0.2	4					
5	18.2	23.8	13.2	29.8	9	8.0	6		17			
6	21.3	25.8	16.9	31.7	30	12.5	2		18			
7	26.4	31.4	22.8	38.1	27	18.8	19		29			2
8	30.1	37.0	24.3	39.9	20	19.5	29		31			13
9	22.5	28.4	18.3	34.5	4	13.1	20		25			
10	17.9	24.5	13.2	30.0	2	7.2	28		16			
11	8.9	15.4	5.2	21.0	5	1.3	26					
12	3.4	10.6	1.4	14.3	15	-1.9	28				7	
年									136		36	15
極値				39.9	8/20	-2.7	1/18					

7年 月	湿度%			降水量 (mm)			量別降水日数					
	平均 9h	最小	起日	総量	最大 日量	起日	≥1 mm	≥10 mm	≥30 mm	≥50 mm	≥100 mm	≥300 mm
1	78.2	49.0	6	45.0	30.0	4	4	2	1			
2	72.5	51.5	19	26.5	16.0	12	3	1				
3	69.0	48.5	27	74.0	31.0	30	8	2	1			
4	62.3	38.8	20	89.0	18.0	9	14	4				
5	66.0	42.3	27	386.5	133.0	12	13	6	4	2	1	
6	68.3	43.1	1	138.0	31.0	3	14	5	1			
7	74.7	55.0	26	458.0	103.5	21	14	10	6	5	1	
8	59.3	47.0	27	30.0	16.5	30	4	1				
9	66.5	45.2	5	45.0	15.0	14	6	2				
10	68.8	43.5	20	80.5	30.0	24	7	3	1			
11	71.3	39.1	8	56.5	20.5	20	4	3				
12	85.7	60.0	15	12.0	3.5	26	4					
年				1,441.0			95	39	14	7	2	
極値		38.8	4/20		133.0	5/12						